

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1271500884		
法人名	有限会社 徳志会医療研究所		
事業所名	グループホーム輝の杜		
所在地	千葉県茂原市緑ヶ丘4-3-2		
自己評価作成日	平成22年2月15日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo.chibakenshakyo.com/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPO共生		
所在地	千葉県柏市光が丘団地3-2-104		
訪問調査日	平成22年3月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

私達は地域の皆様との交流を大切にしながら、よりご自宅に近い快適な暮らしを目指し、くつろぎと安心をご提供させていただいております。また健康な生活を送っていただく為に医療との連携が常時とれる体制を整えております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ①ホームは茂原市の高台住宅地にあり、瀟洒で閑静な立地である。
- ②隣地に内科クリニックが併設され、安心して家族を預けたという利用者調査結果がある。
- ③家族が心配する火災対策として、全館スプリンクラーが配備されている。
- ④ケアについては管理者はじめ職員全員が研修を重ねながらより良いサービス提供をと、研修を重ねている。
- ⑤利用者調査結果では、介護者・家族の介護計画認識度が高く、傾聴への評価が高いのも特徴的である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に組み込み実践しています。月一度実施しているミーティングをはじめ、日々の行動において、常日頃から理念に立ち返り取り組んでいます。	自宅にいるようなくつろぎと安心感、健康で快適な暮らしを提供する為の医療機関との連携、職員の日常的スキルアップ、温かみのこもった食事やサービスの提供など至るところに、法人理念が生きている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者様と近所のスーパー、花屋、床屋、美容院を利用し馴染みの関係作りに努めています。また地域の悠々クラブのボランティアも受け入れお互いに協力しあえる環境作りにも努めております。	近所の店との関係のみでない、ボランティアとの連絡など、心身ともに自由な利用者も見受けられる。訪問時の共有空間は躍動的にも見えた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護教室を開催し地域の方々に参加していただいている他、自治会主催である奉仕活動等をはじめ多くの地域行事へは必ず利用者様と参加させていただき認知症である皆様と直接ふれあって頂く事で多くの可能性や役割を理解していただき社会の一員である事を認識していただいております。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の継続を維持していく為に、規模を小さくし毎回参加者を変更する等、工夫した対応を試みています。その結果充実した内容を話し合える他、課題が明確化しやすくグループホームの現状も理解していただけるいい機会となっております。	当初はレジュメ配りから始まり、拒否の声を聞いたことも。制度がもたらした会議だが、受身だけの対応ではなく利用者ともどもに参加し、一緒に草取りや掃除に参加させて貰った。地域から利用者の紹介や事業所案内など、情報の活用場としてこの会議に参加している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	担当者の方は、小さな事から専門的な事まで何でも相談しやすく、またそれらに対して迅速に対応していただいております。	市相談員との連携がうまく取れており、相談や対応の結果から、事業所の運営と行政効果が健全なサイクルで機能しはじめている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	千葉県高齢者権利擁護、身体拘束廃止推進研修基礎・専門課程への参加をはじめ定期的に職場内研修の機会を設け、マニュアルも作成する事で職員全員が正しく理解するように努めています。玄関の施錠については利用者が自由に出入りできるようなシステムを導入したものの防犯上の管理がとりにくく利用者様の安全を第一に考え施錠にて対応しております。	高齢者虐待防止法の学習と平行させて複雑多岐な『身体拘束』研修を実施している。職員の状態、言動などが精神的なダメージを与えるケースなども併せ、繰り返し徹底させたいと、研修計画にも組み込まれている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	千葉県高齢者権利擁護、身体拘束廃止推進研修基礎・専門課程への参加をはじめ定期的に職場内研修の機会を設け職員全員が虐待について正しい知識を持つと同時に背景等を深く理解し学ぶことで絶対に虐待はしない、させないという姿勢を持ち防止に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設外研修で各職員が学びえたものを会議等で報告するだけでなく、それぞれが理解できるように職場内研修の機会をもうけることで対応しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書を交わす際は必ず口頭で説明、ご理解いただいた上でサインをいただきお渡しするようにしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	連絡方法は重要事項説明書に明記、玄関には意見箱も設置しています。またご家族より職員へお話があった場合、相談処理という形式で今後の対応も含め記録を残していません。	重要事項説明書、玄関に常設のご意見箱、業務日誌などのほか、個々の記録にも記述されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一度のミーティングでは代表取締役にも参加していただき職員一人一人の意見も聞いていただいています。	内部研修を行う月一度のミーティングだが、運営に関する職員意見の提言の場としても定着させている。日々出る意見等をまとめ、この機会に提言をする、討論する作風を定着させたいと願っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則にのっとった適切な対応をしていただいておりますが、夜勤者の申し送りやミーティング等、日頃より職員一同の話に耳を傾けていただき常に直接労をねぎらう言葉かけをして頂く事で職員の志気が高まっているようです。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設外研修は適応者全ての職員へ平等に機会をいただいています。それ以外でも勉強会の情報や資料、必要な参考書も購入していただいています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	千葉県地域密着・小規模ケア推進協議会（千葉県第6ブロック、グループホーム外房連絡会）主催の研修会等へ積極的に参加させていただき他の事業所と馴染みの関係を築けるような機会をいただいております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	何でも言える相手と思っていただけるよう、まずは信頼関係を築くよう努めています。内容に関しては代表取締役や職員一同で話し合い対応していくようにしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	私達のご家族に対し受容する姿勢を持つことは無論、私達もご家族の助けや支えがなければ前進できず、お互い必要としあい助けあっていく存在である事を理解していただけるよう努めております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	私達では対応できない場合、ご希望者には関係機関をはじめとする他事業所へ連絡し対応を依頼しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様がありがとうと言うのではなく、言われる事を大切に考え支援しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の協力なくしては利用者様の生活支援はできません。お互い必要な存在である事を理解しあい大切にするよう努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人の方の面会等ご家族の同意を得た上で実施するよう支援しています。また入居前より利用されていたあん摩マッサージ等を継続される方もいます。	利用者の都合もあり、ユニットごと楽しみ場として支援している。争いや言葉の衝突があっても、スタッフでフォローする。当事者なのに人生経験豊かな利用者同士の収束のさせ方に、スタッフが脱帽することもある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員があえて間に入らず利用者様同士だけの時間を大切にしお互いの居室等を行き来する環境作りにも努力しています。また利用者様同士のトラブルにも後に職員がフォローするようにあえてストレスがたまらないようぶつかりあうのも必要だと捉えています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	協力を必要とされているご家族とは連絡をとる等の対応を続けています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式によるアセスメント方法を活用し利用者様の訴えをその場だけのものにせず記録を残す事で把握できるように徹底しています。また職員全員がセンター方式への記入をする事で利用者様の様々な思いを掴むことができ、職員も利用者様の立場に少しでも近づく事ができます。	気づいたこと、感じたこと、見たこと等をケアプランに落とし込む。言うだけ言って終わる場合もあるが、シートに残すことで計画作成担当者や家族にも伝わることもある。効率より、その時の必要度を尊重する。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活を続けていく中で利用者様やご家族と信頼関係を深め、そのおかげで得られた情報を大切に活用させていただいています。またそれらをセンター方式へ記入する事で職員全員が情報を共有しサービス向上へ繋げられるよう努めております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	月一度のカンファレンスで各職員が個々に捉えた利用者様の情報を交換、共有しどんな些細な事でも話し合う事で把握するように努めております。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画についてのモニタリングやアセスメントは職員全員の意見が反映されるように努め、月一度のケアカンファレンスでも全員で話し合うようにしています。またご家族にもプランについて個々に必ず説明し意見を伺うようにしており、それらを参考にしたプランの変更を定期的実施している他、急な体調変化等にも随時対応しています。	内部研修の時間後、ユニットごとにケアカンファを行う。『話し合おうね』が口癖となるが、会議会議で追われるより、月1回の会議に集中させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常生活の状況をタイムリーにケース記録へ記入し業務日誌の記入も実施しています。これらの情報を活かしモニタリングやアセスメントの記入、さらにはプランへも役立てるよう努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	デイサービスが併設、利用者様同士の交流を目標に行事等の共催や設備の共有等を実施しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域住民によるボランティアの導入や小中学生の現場実習、消防署立会の避難訓練等多くの方々のご協力をいただきながら支援しております。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	宮本内科医院にて定期的に受診を受けています。季節柄、院内に感染症の患者様が多い場合には宮本内科医院の先生のご協力のもと往診へ切り替える等の対応をとっていただいております。また利用者様やご家族から他医療機関の受診をご希望される場合や先生の判断にて他医療機関の受診が必要な場合等にも臨機応変に対応していただいております。	カルテのある病院への紹介で、救急対応を考えている。入院歴を大切にすると共に、受診までの時間を短縮してくれる病院を尊重している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設のデイサービスの看護師をはじめ宮本内科医院の看護師にもご協力いただいております。個人契約ではあるものの利用された訪問看護ステーションの看護師にもこれまでご協力いただきました。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際には必ず職員が同席し病院のスタッフへ申し送りをするようにしています。必要であればご家族から同意をいただき情報提供表も作成しお渡ししています。また入院されてからも頻りに訪問し利用者様の不安を少しでも取り除けるように努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族会をはじめ常日頃から終末期や重度化した場合については話し合いをするようにしております。具体的にお話が必要になった場合には利用者様やご家族と相違がないように宮本内科医院の先生のご協力をいただきながら意思確認をして対応しております。	入院しても延命治療による本人負担を望まない家族も居られさまざまだが、訪問看護ステーションの利用も考慮に入れながら対応していくという。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	宮本内科医院の先生のご協力のもと、より専門的な知識を身につける為の勉強会等を実施する他マニュアル等を作成、その他にも分りやすい参考書を購入する等の対応をしています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回訓練を実施し消防署の予防課の方々にも参加、ご指導いただいております。また訓練にはご近所の方やご家族にも参加を促し、ご近所のスーパーには参加を募集するポスター等を提示し皆様の参加を受け付けております。	災害対策の訓練には、様々な危機を想定し行っている。しかし火災による避難にはスプリンクラー活用が良いと判断し、すでに全館設置済みである。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	内部研修等を実施し職員の向上を図りながら徹底して対応するように努めています。	言葉や態度による人格無視、プライバシー侵害を日々起こさないよう、法規と実態の突合せによる研修などを行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	全ての中心は利用者様であり、利用者様個々の特徴をふまえたうえで上手に意見や願いを引き出せるように努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の体調等を考慮したうえで日々のスケジュールは皆様に決めていただいております。均一した対応はせずに個々の満足を大切にするように努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	近所の理・美容室の利用をはじめ外出の際は本人が望まれる場合、女性の方にはお化粧をする等の対応も実施しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の出来る事、得意な事を活かし実施していただいております。献立は事前に作成はしていますが利用者様の希望にて変更することも多々あります。	テーブルセッティングなど、利用者の生き生きとする場面が見られる。楽しい雰囲気はスタッフが見守っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者様個々の咀嚼や嚥下の能力に応じご希望も伺いながら食事や水分を提供しています。いずれも記録におこし確認するようにし摂取量が著しく低下した場合等は主治医へ相談する時もあります。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	清潔保持の為だけではなく、感染症や肺炎予防の為にも実施を徹底しています。宮内内科医院受診時には先生に口腔内も必ず観察していただき舌の状態をチェックしていただき必要に応じて口腔ケアの仕方まで的確なご指導をいただいております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄を心がけています。お一人お一人の生活リズムは日々の記録に残し、それをもとに月一度ケアカンファレンス等で利用者様の不快感につながらないように話し合っ対応しています。	安易にリハパン頼りにしないよう、介護度の軽度化を目指して利用者ごとの対応を行っている。記録では利尿剤服用の利用者配慮など細かい実施状況が記され、介護度4から2または3への軽度化が実施されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便有無の確認と対応には記録を徹底する等、日頃より注意しています。生活リズム、飲食物や献立の工夫はもちろん医療面からも対応できるよう宮本内科医院受診時に排便回数や形状等も先生へ伝え必要に応じ対処していただいています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は1日おきに実施していますが利用者様の体調や気分に応じた対応を実施するよう努めています。入浴時間が楽しいのは無論、リラックスできるよう努め職員も個別のコミュニケーションをじっくり図れる大切な時間と捉え対応しています。	原則は一日おきに楽しんでいただくが、いやな場合などには足浴を行っている。利用者のそのときに合わせた支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	職員は利用者様お一人お一人の生活リズムや体調を観察記録やアセスメント、カンファレンス等で把握し利用者様が自由な時間を過ごせるように努め支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬一覧表は作用等についてすぐ確認できるよう記録にファイルしています。また内服薬変更があれば服用後の状態変化に十分注意し記録をおこすようにしています。必要に応じては主治医に報告するように努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	単調な毎日にならないよう利用者様の役割や達成感、望み等を実現しつつ職員も一緒に楽しみながら有意義な日々を送れるよう努めています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	食材の買い物や外食、地域の行事や散歩等へ頻りに外出しています。また個別対応も心がけ望まれる方へはコンサート等への行事参加も実施しています。	冬場や夏以外は、お昼を食べに行こう、ということもある。月に1~3回ほどはお団子やさん、ソフトクリームなど、好物を言い合っ出かけることもある。コンサートには自立度の関係もあり、スタッフ2名が付き添うことも。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様の所持金は金庫に預かっているものの希望に応じて自由に出し入れし、おすきなものを購入したり食べたりと利用者様が各自の力で満足できるよう努めています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話等は利用者様がご希望される時、職員がその都度対応しています。会話中は職員がそばにいないように配慮しご家族のみの会話を楽しんでいただけるように配慮しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	強い日差しや気温には職員が配慮しつつリビングや廊下の装飾は利用者様と一緒に実施しています。ホーム全体が利用者様にとって作られた場所ではなく、作っていく場所となるように心がけています。	共用空間が楽しげである。この日は誕生会のように、お菓子など賑やかなテーブルだった。北欧の民族衣装を着たスタッフが輪になりピアノにあわせステップを踏んでいた。お洒落で楽しそうな共用空間があった。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング以外にも利用者様が自由に過ごせる空間作りに努め、時々利用者様同士、お互いの居室を訪問しあう時間等を大切に職員が邪魔をしないように配慮しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	決して馴染みの物ばかり置く事がいい事ばかりとは限らず利用者様本人が居心地良く感じるもの、求めているものが何なのか深く理解する事に努め我々が押し付けないように注意しています。	確かに利用者個々のそのころの好み的大事にされている雰囲気であった。押し付けのない有難うを言いたい。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すり等は無論、転倒のリスクが高い利用者様には足元が滑りやすいマット等は取り外し対応しています。最初から全てを取り除くのではなく必要に応じて対応しています。		

目標達成計画

作成日: 平成 22 年 4 月

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先入します。

【目標達成計画】				
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取
1	13	研修等への参加は促しているものの各職員個人の資格取得が消極的	各職員の資格取得	毎回ミーティング時に必要性を伝のプライドの確立を目指し積極的する
2		「利用者調査分析結果」避難訓練の実施等、徹底しているもののご家族へ実施状況が伝わらない	ご家族の不安解消	これまでは家族会等で記録を開き実施をご家族へ通信便りにて報告促してきましたが、それらと同じに族へ写真付等で詳細に報告しご
3		「利用者調査分析結果」メニューの把握が職員のみになっている	利用者様とご家族への周知を徹底	1日のメニューを利用者様及び家へ貼り出す
4				
5				

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。